

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2019年7月20日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙 岡田沙也加(気象予報士)		
検証テーマ：オープニング、参院選最終日、イラン革命防衛隊がイギリスのタンカーを拿捕 【特集】 差参院選選～焦点の投票率は		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎対馬などに一時大雨特別警報 ・オープニング ・西日本明日まで大雨に警戒 ・参院選最終日 ・闇営業問題で宮迫さん田村さんが謝罪会見 ・京アニ火災 ・ドラゴンアッシュのメンバーらを大麻所持容疑で逮捕 ・イラン革命防衛隊がイギリスのタンカーを拿捕 ・宇都宮市で飲酒運転死亡事故の男を逮捕 ・【特集】 参院選～焦点の投票率は ・【特集】 平成以降で最悪～アニメ会社放火 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニング：結論→特に問題なし 番組のオープニングでは金平キャスターが「ええ、京都のアニメ制作会社を標的にしたあまりにも酷い事件、なぜこんな事が起きてしまったのでしょうか、私達の社会に悲しみや歪んだ憎しみがこれ以上増えないように祈りたい気持ちです、さて明日は参議院選挙の投票日です。京都の事件、参議院選、共に特集でお伝えします。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は19秒で放送法上は特に問題は見られなかった。 ・参院選最終日：結論→高く評価 参院選最終日ということで各党の党首らの訴えが以下に朱記したように取り上げられていた。 膳場貴子「明日、投票日を迎える参議院議員選挙、選挙戦最終日の今日、各党の党首らは全国各地の激戦区などで有権者に最後の支持を訴えました。」 安倍晋三(自民党総裁)「心を一つにすれば、チャレンジすれば、必ず勝利を得ることができます、わたしたちはその野党統一候補に絶亭に負ける訳にはいかない。その覚悟で今戦っているんです。」 山口那津男(公明党代表)「政治の安定が土台になればならない、小さな声を聞く力、この聞く力を持っているのはネットワークを活かした政策実現力を持つ公明党しかありません。」 ナレ「与党側の党首はそれぞれ激戦区に入り最後の票の掘り起こしを図っています。対する野党側も与党との政策の違いなどを鮮明にしながら支持を訴えています。」 枝野幸男(立憲民主党代表)「最後の一押しをお与えいただき、わたしたちと一緒に新しい時代、切り開いてまいります。この社会を、政治を、変える力はあなたの中にある、私にはあなたの力が必要です。あなたの力が 		

必要です。あなたの力が必要です。」

玉木雄一郎(国民民主党代表)「日本の政治のために、皆さんの暮らしのために、一生懸命頑張っている多くの名もなき国民のために、皆さんの一票を！」

志位和夫(共産党委員長)「戦前戦後一貫して命がけで、反戦平和を守り抜いてきた筋金入りの平和の党が日本共産党でございます。平和への御一票、9条守れの御一票、どうか日本共産党に託してください。」

松井一郎(日本維新の会代表)「自民党公明党、安定勢力、それはね、民主党政権のときよりよっぽどマシ。でもね皆さん、そこにやっぱりあまりにも強すぎてね、緩み、たるみ、おごりがあるんですよ。」

吉川元(社民党幹事長)「国民の暮らしを守る、働く人たちの権利を守る、そして何よりも平和を守る、その社民党を是非国政の場に残していただきたい。」

ナレ「参議院選挙は明日、全国で投開票が行われ夜に大勢が判明する予定です。」

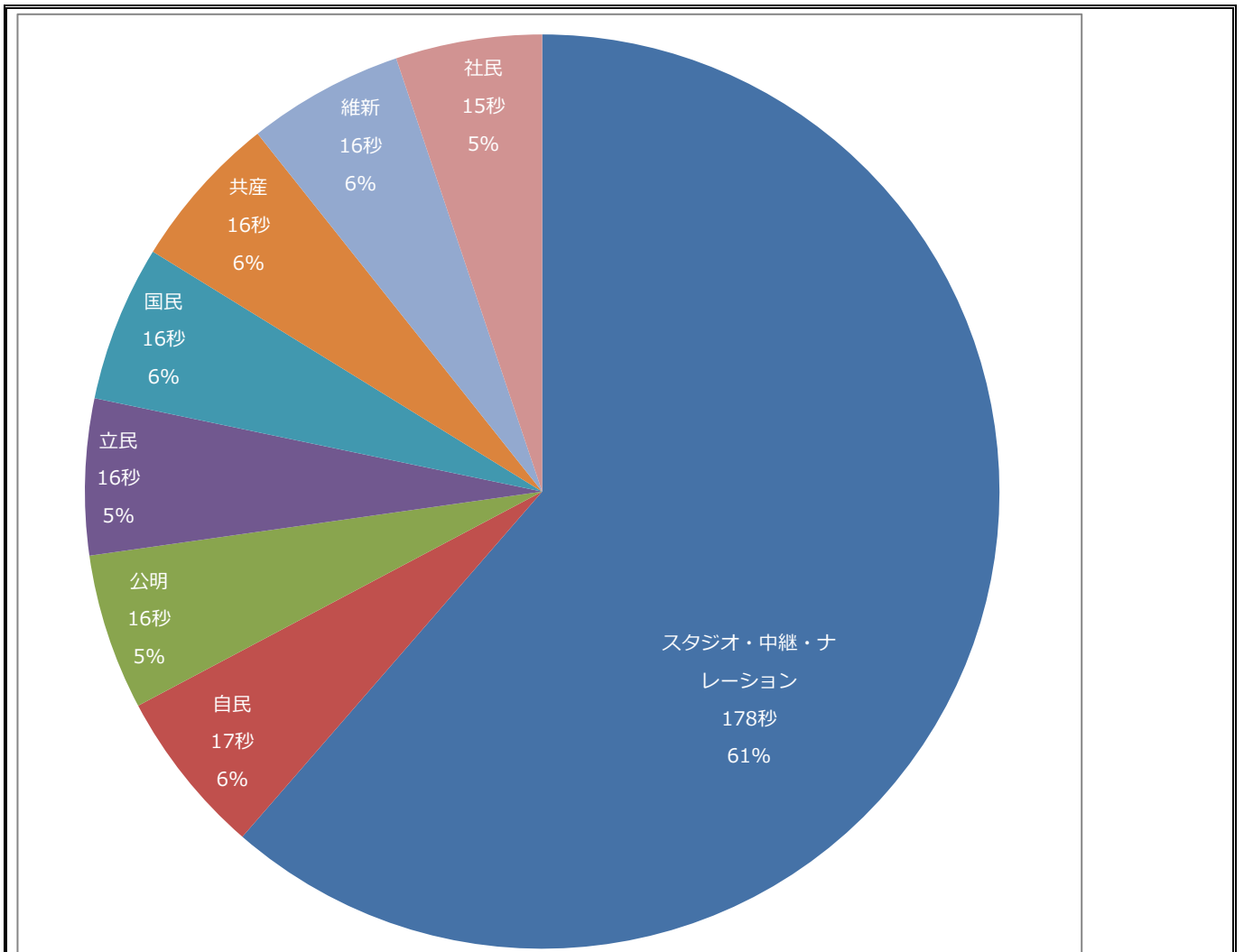
"日下部正樹「続いて政治部官邸キャップ、後藤さんに聞きます。今回の三銀選挙の最も注目されるポイント、これはどこでしょうか。」

後藤俊広「勝敗のカギを握るとも言えるのが与野党の候補が一つの議席を争う一人区の行方です、こちらですねご覧のように赤で塗られた選挙区、全国に32あります。一人区では与党側の候補者に対し立憲民主、国民民主、共産、社民などが統一候補を擁立し事実上の与野党一騎打ちの構図で選挙戦が繰り広げられています、双方が力を入れる理由は一人区の勝敗が選挙結果が全体の雌雄を決するとも言えるからです、与党側が政権運営の実績を強調し政治の安定を訴えているのに対し、野党側はいわゆる老後2000万円問題などで政府批判を強める他消費増税の凍結などを掲げ、対立しています。特に東北地方や新潟県、近畿地方の一部では激戦となっています。」

日下部正樹「憲法改正に前向きな改憲勢力が国会での憲法改正の発議に必要な3分の2を超えるかどうか注目されますよね。」

後藤俊広「はい、改憲勢力が3分の2を確保するためには今回124ある改選議席のうち、85以上の獲得が求められています、しかし現時点で85議席に到達するかどうか、情勢は微妙です。選挙戦にあたって安倍総理は国会議員は憲法の姿を議論する責任がある、と会見論議を活発化させたい考えを示しています、仮に改憲勢力が三分の二以上の議席やそれに迫る議席を獲得した場合は国会での憲法を巡る与野党の綱引きが始まることが予想されます、こうしたことから憲法改正が参院選挙後の大きな政治的なテーマになると言えそうです。」"

このトピックに当てられた時間は290秒で時間配分は以下の通りであった。



各党党首の訴えを取り上げたシーンは概ね均等であり、放送法上は特に問題は見られず、また放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点からは高く評価できるものであった。

・イラン革命防衛隊がイギリスのタンカーを拿捕：結論→特に問題なし

中東ホルムズ海峡でイラン革命防衛隊がイギリスのタンカーを拿捕したとのこと、これは今月初めにイランの原油を積んだタンカーが拿捕されたことへの報復とみられているとのこと、イラン革命防衛隊は19日に国営テレビを通じてホルムズ海峡を航行していたイギリスのタンカーが国際的な航行規則の従っていないので拿捕したと発表したとことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は84秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】参院選～焦点の投票率は：結論→特に問題なし

参院選の投票率について焦点を当てた特集が取り上げられていた。

特集の冒頭ではスタジオで以下に朱記したやり取りが繰り広げられた後にVTRが取り上げられた。

膳場「特集です。明日は参議院議員選挙の投開票日です。年金や経済、憲法など、様々な争点がある中、投票率がどうなるかも、注目されています。」

日下部「民主主義の危機にもつながりかねないといわれる投票率の低下。これをどう向上させればいいのでしょうか。」

【VTR 1】

ナレ「明日、投開票を迎える参議院議員選挙。年金、消費税、憲法など様々なテーマで各党が激しい選挙戦を繰り広げたが、」

ナレ「若者の集まる東京・渋谷で聞くと、」

女性「普段から、そんなにその、政治のことについて考えていない」

男性「自分の一票でそんなに変わるのかなってというのが・・・一番で・・・」

女性「知らないのに、やって、その人が当選しちゃったら、なんか無責任なんかな、するかな」

男性「分かんないけど、投票します。」

男性「やっぱ、若者少ないじゃないですか、入れるの、投票なんで入れないとみたいな。」

ナレ「今回の参院選。有権者に関心を持って受け止められているのだろうか。気がかりなデータがある。」

【VTR 2】

テロップ「明日投開票が行われる参院選だが、情報調査会社のデータによると、公示日以降に在京キー局が参院選を扱った時間は、前回の参院選よりも、15%ほど減少している。」

ナレ「さらに、JNNの世論調査によると、今回の参院選で、すでに期日前投票を済ませたと答えた人と、必ず行くと答えた人は、合わせて59%だった。過去二回の国政選挙の調査と比べても、明らかに低い数字だ。」

ナレ「今回の参議院選で、有権者の意識調査をした埼玉大学の松本教授に聞いた。」

金平「実は私にもかなり衝撃的な数字なんですけど、これはどうぞ覧になりますか？」

松本教授「もうあけすけに『行かないよ』ていうことが平気で言える。そういう感じ。そのぐらい要するに一票を投じるってことが軽くなってきているのかもしれない。」

松本教授「行きませんってこう、いうことが、昔と比べてほとんど心理的抵抗ってというのが、こういうものが逆に言えばなくなってきているのかもしれない。」

ナレ「若い世代の投票率が低いといわれて久しい。前回の参院選の投票率は54.7%だったが、10代から30代の投票率は、これを大きく下回った。」

ナレ「この現状に松本教授は、」

松本教授「政治や、選挙に無関心でいることは自由だけれども、政治の側は、あなたたちをほおっておきませんよっていう、これをやっぱり、誰かがずっと言い続けなければいけないんじゃないですか。こんなことをなぜ僕が言わなきゃいけないんだ。誰か言ってよって思いながら、でも、やっぱり、誰かがやらなきゃいけないので、こういい続けるってのが、大事なんじゃないかなというふうに思いますね。」

ナレ「一方、投票率を上げるために、活動している若者たちがいる。」

【VTR 3】

膳場「えー渋谷区にありますおしゃれなカフェに来ているんですけども、入り口にセンキョ割というポスターが張ってあります。」

ナレ「センキョ割りとは、何なのか。投票に行った人が、投票所で撮影した写真や、投票済み証明書を店に提示すると、商品の割引や、オリジナルグッズのプレゼントなど、サービスを受けることができるということだ。」

ナレ「学生ボランティアが中心となって、全国に参加を呼びかけている。」

フロムコーヒー立花慶久代表「運動されている学生さんたちとお会いして、はじめ若干その選挙の話をされたときに、ちょっと身構えてしまったんですけど、はい、あの一純粋にあの政党とか、主義主張とかではなく、ホントに投票率上げたいんだということをして、あのやることを決めた感じですね。」

ナレ「現在40都道府県、800以上の企業や店舗が参加するなど、広がりを見せているセンキョ割。その舞台裏は、」

膳場「えー都内にあるシェアオフィスの一階、ここの部屋で学生たちが選挙割の活動をしています。えーこんにちは。今皆さん発送作業していらっしやるんですね。」

ナレ「試験や夏期講習などで忙しい中、学生たちは、参加店舗へのポスターの発送や、センキョ割への参加の呼びかけに追われている。」

大学3年生甲斐愛理さん「もしもし、選挙割の実施委員会の甲斐というものなんですけども、お世話になっております。今お時間大丈夫ですか？あっそうなんですね。はい、またかけなおします。はい失礼します。忙しかった。」

"甲斐さん「めっちゃ苦勞してます。電話。」

膳場「鍛えられますね。」

女性「そうですね」

甲斐さん「あまり連続でやると、心が・・・」

膳場「同世代の若者たちの投票率が低いことについてどんな風に見て、どんな風に思われていますか？」

大学2年生小山歩さん「どうしても、4、50代の方々が、選挙に行く人が多くて、高齢者の方々が多くてっていうのが、現状で、若者若者から底上げしていかないと、どうしても日本全体の政治意識っていうのは、上がらないと思うので、そういうのを、こういう活動を通じて、興味を持ってもらうべきなんじゃないかと僕は思ってますね。」

大学1年生 関健太さん「自分が言っても行かなくても、変わらないやと思っちゃってるところもあるんで、たかが1票っていう人がたくさんいるというのは、やっぱりすごい問題かなと自分自身も思います。」

ナレ「こちらの古本屋から新しい形で投票率を上げる活動が広がっている。」

"膳場「黒猫さんの、今回の取り組みっていうのは、VOTE & READ」

本屋の人「そうですね、あの、投票をして、本を読んでほしいというようなことを、」

ひるねこ BOOKS 小張隆店主「本を読むこと投票で一票を投じることで、あの自分も変わるし、自分の選択によって自分も変わるし、そして世界が変わっていくというようなことを、まあ目指したいなというふうに思って、考えました。」

ナレ「こちらの古本屋では、投票済み証明書を提示することで、20円から300円までの本が、一冊無料になるというキャンペーンを行っている。始めたのは、一週間前、SNSで告知をしたところ、全国の書店などから、次々と賛同の声が上がったという。」

膳場「投票率が低すぎて気になるというようなことはありますか？」

"小張店主「やっぱりそうですね、半分50%ぐらいですから、」

膳場「54.いくつ」

小張店主「そうですね、だから半分近くの方は、自分の意思を示さないというようなことで、まず関わる人、政治に関わる人、意思を示す人を増やさなくちゃいけないということは、もう本当に心の底から思いますし、それの一つのきっかけを提供したいなというふうに」

小張店主「僕は今30代ですけども、まあ特に若い世代というか、そういった世代の声をしっかりと届けなくてはいけない」

ナレ「若い世代の投票率を上げようとする取り組みは、着実に広がっている。」

ナレ「そんな若者たちにとって、関心の高い問題が不登校や引きこもりだ。この問題に政治はどんなアプローチをしているのか。20年以上、不登校や引きこもりに関する情報を発信し続けている団体、全国不登校新聞社。」

ナレ「毎月、2回発行している不登校新聞では、創刊以来、1000人以上の当事者の声を記事にして伝えてきた。

不登校新聞では、選挙が行われるたび、各政党に不登校や引きこもりに関するアンケート調査を実施。その回答を大きく紙面にのせているが・・・」

ナレ「編集長の石井さんは今回の政党アンケートについて、手ごたえのなさを感じている」

不登校新聞石井志昂編集長「政党ごとの特色ってなかなか感じづらいというのが、本音のところですね。考えます。検討します。とか当たり前のことで、本当に私たち、今苦しんでいる自分たちの事なのかと、なんか悩んでいる人の核に届かないような答えというのが、私は個人的には、読んでいて感じるんですよ。」

ナレ「何よりも驚いたのは、政党アンケートの閲覧数が、激減していることだ。」

石井氏「2017年の衆院選では、2週間で8000人の方が、WEb上で政党アンケートを見ていただいたんですけども、今回はまだ、2000人ぐらいの人しかまだ読まれていないので、だいぶ反応が悪いなと。」

記者「もうしばらくしたら、8000人に近づくとかそういう？」

石井氏「いや全くこの2000人からこっからぐっと上がるっていうことはほとんどないので。」

ナレ「10代の読者からはこんな意見も届いている」

石井氏「これ読んでも、行きたいとも行きたくないとも思わない。と言ってるんです。どの政党も同じようなこと述べてる。って言ってまして、不登校の理由が、いじめや虐待ばかりだと受け取っているように感じる。私の場合はそれ以外でやめたという人の方が多いので、もっと不登校について知ってもらいたいっていうふうなことを、まあ話していますね。」

ナレ「石井編集長が政治に対して、思うこととは、」

石井氏「やっぱり、今の政治が、あの一本当の意味で、その、弱者の気持ちのところに降りて行ってないと思うんですね、顔の方も選挙行かなきゃと思いつつも、じゃあ何を考えたらいいのかわかんない。公約見ても、私たちの事書いていると思えない。その遠さ。お互いにその、政治が遠くなっているなっていうのは感じますね。」

ナレ「政治への関心の低さが指摘される日本とは、対照的な場所がある。」

デモ隊（字幕）「撤回！撤回！」

ナレ「政府への抗議活動が、続く香港だ。先月には主催者発表で、最大200万人がデモに参加。」

記者「デモ隊が立法会に入りました。」

ナレ「今も、若者たちを中心に10数万人規模のデモが続いていて、終息する気配はない。」

日下部「地下鉄駅前のこの通路ですけれども、連儂（レノン）隧道と名付けられていますこのレノンというのは、ビートルズのジョン・レノンの事ですね。えー彼が世界に呼びかけた平和ですとか、自由、これに共鳴して、香港の自由を守りたいという人たちがですね、こうやって壁一面にメッセージをこう貼っているんですね。もうずっと、一面メッセージ。あのー香港頑張れとか、香港の自由を守ろうとか、」

ナレ「抗議の意思を示すこの方法は、誰が呼びかけたわけでもなく、急速に広がった。香港の街には、こんな光景が至る所に存在する。」

日下部「ここは、よく聞く香港加油。香港頑張れ！ですね、そしてもう一つ割と目立つのはですね、こちらにある我々は真の普通選挙が必要である。普通選挙を求めるといったメッセージもかなり見かけますね。」

ナレ「占拠に様々な制約がある香港。日本の国会にあたる立法会の議員選挙では、議席の半数は職業別の業界団体から選出することになっていて、そのほとんどが中国共産党を支持する親中派で占められている。残りの半数は地域別の直接選挙で選ばれるが、香港政府や中国に批判的だとみなされた人物は、立候補が認められない事態がこの数年相次いでいる。」

ナレ「民主派リーダーの一人、周庭さん22歳。周さんも立法会議員に立候補しようとしたものの、認められなかった。」

周庭さん「今香港市民を見てみると、すごい落ち込む人がたくさんいて、やっぱり自殺した方もいたし、やっぱり政府もなかなか私たちの意見を聞かないし、警察の暴力もどんどんどんどんひどくなつたし、私も落ち込んでいるときにここに来れば、パワーをもらったなあっていう、そういう気もありますね。」

日下部「三日前に激しい衝突があったこのショッピングセンターなんですからけれども、そこにおいてあるこの、インフォメーションデスクはですね、こうやってあつという間にですね、レノウォールと化してますね。」

ナレ「日本と違い、香港は事前に有権者登録をしないと、投票できない仕組みだ。永住権を持つ 18 歳以上にその資格があり、一度登録すれば投票権が失われることは無い。デモの影響はこの登録数に現れた。」

日下部「えーこの奥がですね、有権者登録などを扱う選挙事務所という公的機関です。そしてこの事務所が我々に提示したですね、資料によりますと、今年の有権者登録はずば抜けて多いんですね。」

ナレ「今月、2 日に締め切られた今年の新規の有権者登録数は、暫定値でおおよそ 35 万人。雨傘運動など、過去に起きた大規模デモ後の登録者数と比べても、はるかに多い。香港の人たちの政治意識は、かつてないほど高まっている。」

男性（19 歳）（吹替）「投票によって政府を擁護する人を排除し、社会がよりよくなってほしいです。」

女性（18 歳）（吹替）「数日前に有権者登録しました。香港のために少しでも力になりたいからです。」

日下部「あの日本、若い人たちがなかなかこう、投票に行かないんですよ。どう思いますか？」

女性（吹替）「日本の人は政府を信用していて、誰が当選しても、その人を支持できるからでしょう？」

ナレ「周庭さんに日本の選挙について、聞いた。」

周庭さん「この 3、4 年間よく日本に行って、いろんな日本の方にも、日本政治の話をして、話したけど、日本の投票率が低いということは結構有名っていうか、一部分のひとにとって、政治はつまらないものかと、かもしれないけど、ちゃんと自分の日常生活とつながっているものだと、思いますね。香港人はこんなに一生懸命やってまだ民主制度がとれないんですけども、まあ日本の皆さんがせっかくね、そういうこんなに良い制度を持っているんですから、ちゃんと、大事にしないとだめだなと思います。」

特集の VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「いや一周庭さんの言葉には、本当にハッとさせられますね。あの政治にダイレクトに意思表示ができるつながっていく、一票、その投票をもし放棄してしまったとしたら、それがどれだけでもったいないことかっていうことを再認識させられました。で、あの取材をしました選挙に行くと割引が受けられる様々な活動は今、全国的に広まっています、選挙お正月やお祭りに並ぶ日常の中の楽しい行事と思える文化をとりたいたいというそういった思いに大変共感をしました。」

膳場「えーそして個人的には、あの本屋さんがおっしゃっていたんですけども、政治に関してなかなか言いたいことが言い出しづらい状況の中で、言論を担う本屋さんが議論の場となっていきたいというのに、驚きを感じました。」

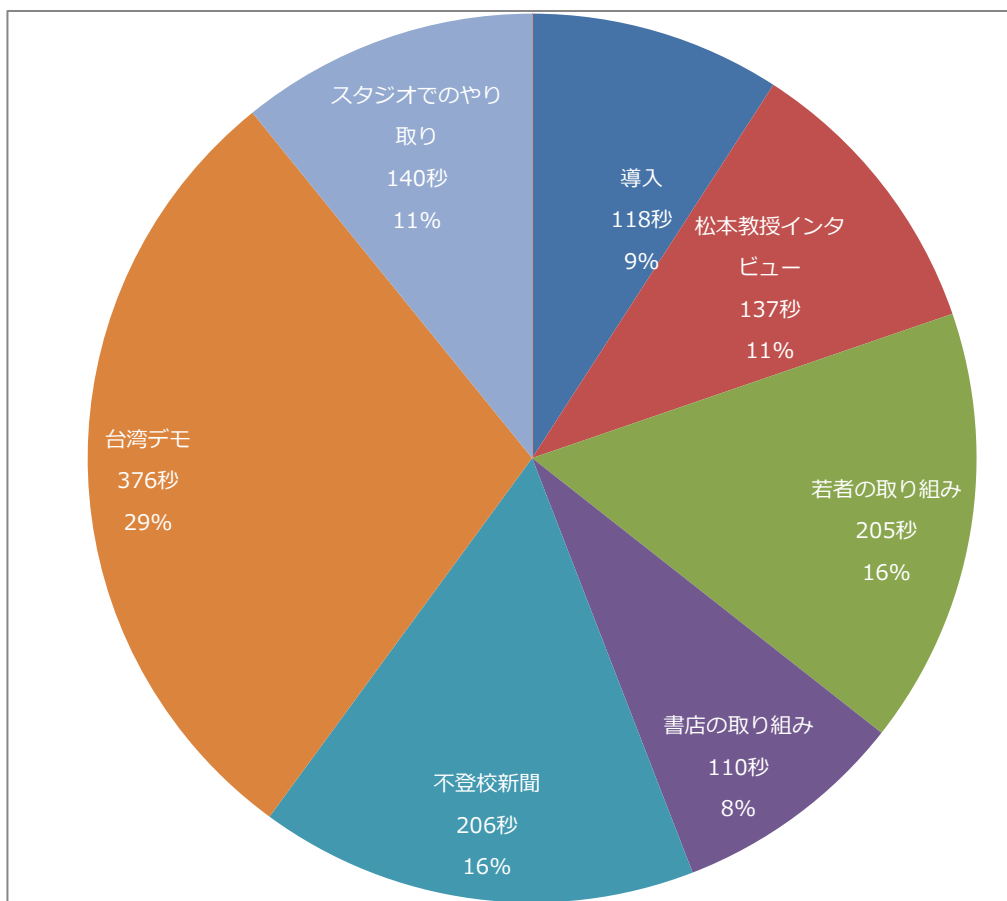
金平「あのね、今回の選挙戦でね、テレビが、その、選挙のことをちゃんと積極的に報道していないじゃないかって声が寄せられてますよね。あのエヌデータの調査では、前回の参議院選挙よりも、15%報道量が減っているってことで、そういういいかた批判には一定の根拠があると思いますね。」

金平「えーテレビの報道に携わっている一人として、非常に残念です。あのちょっと前までは選挙っていうと、お祭り、楽しいみたいなね、そういうことだったんですけども、今、なんか全体に息苦しさですかね、伝えられるべき運動のその変化っていうのはテレビでは報じられないんじゃないかなっていう危惧を抱きますけれども、香港を見てみると、その、街頭演説で、野次でね排除される日本と比べてどっちが民主主義なんだみたいな思いもしますけれどね。」

日下部「あの、これは VTR でも紹介したですね、香港の有権者登録の推移ですね、政治的な動きがあると跳ね上がるんですけども、それにしても今年の 35 万人というのは、抜き出ているんですね。まあ有権者登録は基本的に一回すればいい。つまり、この 35 万という数字は、ほとんど初めての人、しかもですね、若者が大半と考えられるんですね。

日下部「あのよく香港はですね、選挙がきちんとしてないから、こういったデモが多発するんだという指摘がありますけれども、逆に、きちんと制度がありながらですね、それを活用していないのは、金平さんが言ったようにですね、成熟した民主社会と言えるんでしょうか。」

このトピックに当てられた時間は 1292 秒で、それぞれのポイントに当てられた時間は以下の通りであった。



放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

・【特集】 参院選～焦点の投票率は：結論→印象操作の疑いあり

金平キャスターがスタジオで「えーテレビの報道に携わっている一人として、非常に残念です。あのちょっと前までは選挙っていうと、お祭り、楽しいみたいなね、そういうことだったんですけども、今、なんか全体に息苦しきですかね、伝えられるべき運動のその変化っていうのはテレビでは報じられないんじゃないかなっていう危惧を抱きますけれども、香港を見ていると、その、街頭演説で、野次でね排除される日本と比べてどっちが民主主義なんだみたいな思いもしますけれどね。」とコメントしていた。確かに香港の様子については特集で取り上げられていたものの、「街頭演説で、野次で排除される日本」という状況は全く取り上げられていなかった。

香港の状況と日本の状況を比べて「どっちが民主主義なんだみたいな思い」を抱く人がいるかもしれないとい

TV 報道検証【報道特集】 報告書

う可能性は否定し切ることができないが、それは両方の状況を比べて初めて判断できることであり、香港の状況だけを見せて「街頭演説で、野次で排除される日本」という状況を見せずに、金平キャスターが一方的なコメントを行うのは、視聴者に対して誤った印象を抱かせる恐れがあるといえる。

検証者所感

特になし